

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和5年5月25日現在

今月の重点活動

■ 水稲・岐南町及び笠松町農業委員会 プラスチック被覆肥料の被覆殻流失防止策を説明

岐南町及び笠松町は5月8日、各町の農業委員会を開催した。同委員会では、農地の適正利用に関する協議が行われるとともに、農業行政に関する情報提供や農業を取り巻く情勢についての意見交換が行われている。

当日は、農林事務所から、水稲のプラスチック被覆肥料の被覆殻流失防止策を説明した。「セラコート」や「エムコート」等の水稲肥料にはプラスチック被覆がされており、被覆殻の流失防止には、浅水代かきの実施、代かき後の補集ネット使用の効果が高いことを情報提供し、全国農業協同組合連合会が作成した対策YouTube動画を視聴した。出席した委員からは、「代かき後に多数の被覆殻が確認される。これらの対策は重要である。」との声が聞かれた。



【農業委員会風景】

農林事務所では、プラスチック被覆肥料の被覆殻の流失防止策浸透に向けて、農事改良組合長会議や水稲栽培研修会などでの情報提供を進めていく。

(地域支援第一係・佐藤 秀人)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ 岐阜地域指導農業士連絡協議会 令和5年度通常総会を開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会は5月16日、令和5年度通常総会を長良川観光ホテル石金で開催した。

今年度の事業計画等議案審議が行われた後、令和4年度をもって退任される2名の指導農業士から、長年の活動での思い出話の披露や今後の指導農業士会に対する期待の言葉が伝えられた。また、令和5年度から新たに会員となる指導農業士の紹介も行われた。

総会後には情報交換会が開催され、久しぶりに指導農業士同士が顔を合わせて歓談する機会となったことから、活発な意見情報交換が行われるなど、大きな盛り上がりを見せた。コロナ禍でほぼ活動のない3年間であったが、今年度から研修会等の活動が再開される予定である。農林事務所は指導農業士会活動に対する提案等を行い、充実した活動になるよう支援を行っていく。



【退任者への花束贈呈】

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ 水稲・JAぎふ特別栽培米生産推進協議会総会 特別栽培米の栽培技術指導

JAぎふ特別栽培米生産推進協議会は5月12日、令和5年度総会をJAぎふアグリパーク鈴ヶ坂で開催した。生産者、JA及び岐阜県の担当者26人が出席し、令和4年産栽培面積及び出荷実績、令和5年度の作付計画と出荷計画、活動内容等について協議した。

当協議会では、特別栽培米として慣行栽培に対して農薬及び化学肥料を5割削減した米を生産しており、今年度は約70haの作付けが予定されている。

農林事務所では、特別栽培米の生産安定に向けて、栽培暦に基づく基本技術の励行について説明するとともに、収量に低下傾向が見られることから、適切な施肥の実施と土づくりによる地力の増強の重要性を伝えた。



【総会の様子】

生産者から施肥に関する質問があり、土壌診断に基づいた施肥設計を重点的に進めていくこととなった。

今後、農林事務所では、JA営農担当者と連携し、良質米の生産に向けた肥培管理指導や生育調査を実施していく。

(地域支援第一係・遠藤 るみ子)

■羽島市水稻種子採種組合 優良種子生産に向けた指導

羽島市水稻種子採種組合は5月9日、通常総会をJAぎふ羽島北支店で開催した。同組合では、15名の組合員が「ハツシモ岐阜SL」の種子の生産を行っている。

総会では、山北組合長からのあいさつの後、令和4年度事業・決算報告と令和5年度事業・予算計画についての議事が行われ、全ての議案が承認された。

農林事務所からは、基本技術の励行により、「気候変動に左右されない種子の安定生産の実施」を依頼した。農林事務所では、田植え、穂肥施用、病害虫防除、適期収穫等について、今後も支援を継続する。



【総会の様子】

(地域支援第二係・小島 康平)

■JAぎふ水稻栽培講習会 水稻栽培にて講師を務める

JAぎふは5月16日、瑞穂市にあるJAぎふ施設2ヶ所で水稻栽培研修会を開催し、農林事務所は、JAぎふ、全農岐阜県本部と共に講師を務めた。

瑞穂市では6月上旬を中心に「ハツシモ」の作付が行われるが、水田雑草やジャンボタニシの対策は植付前の代かきや田植直後の農薬散布・水管理が重要であるため、5月に研修会が開催することとしたところ、2会場合わせて45名の稲作農家が出席した。

主な説明は、4月に開催したJA営農指導員向けに実施した研修会資料を元に、JAぎふ担当者が担当した。農林事務所からは、高温傾向が続いた場合は雑草の早期も前進化するため、除草剤散布が遅れないよう補足説明を行った。参加者からは除草剤の効果的な使用方法や新しい薬剤についての質問があり、雑草対策への関心の高さが伺われた。

今後、農林事務所では施肥管理や病害虫防除について指導し、令和5年産米の安定生産を図っていく。



【研修会の様子】

(地域支援第三係・神田 秀仁)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■各務原にんじん部会 出荷説明会にて「黒あざ症」対策を啓発

各務原市園芸振興会にんじん部会は5月9日、JAぎふにんじん選果場で出荷説明会を開催した。

当日は、JAぎふの選果場責任者から生産者に対し、5月10日から開始される春夏にんじんの選果開始に向けて、出荷規格の確認、共選・荷受けスケジュール、選果場利用規定等についての説明が行われた。

農林事務所からは、生産者が出荷した後に発生する「黒あざ症」について説明を行い、収穫物の温度が上がらないように保冷シートを被せるなどの管理徹底について啓発した。



【にんじん部会出荷説明会】

(地域支援第二係・足立 昌俊)

■いちご 新規就農者研修所就農支援会議

J A全農岐阜いちご新規就農者研修所は5月17日、今年度卒業し、就農予定の研修生を対象とした「いちご新規就農者研修所」就農支援会議をJAぎふ合渡支店で開催した。令和4年4月から同研修所で研修を行っている第16期生3名のうち、1名が岐阜市、1名が各務原市で就農を予定しており、今回は関係機関との顔合わせも兼ねて開催され、個々の農業次世代人材投資資金、認定新規就農者制度活用の意向確認、就農予定地、経営規模等、現在の就農計画について情報共有がなされた。今後も、生産施設の仕様や費用、申請書類の内容等について検討を行うため、定期的を開催することを確認した。



【会議の様子】

農林事務所では、研修所と関係機関実務担当者、生産部会との連携を強化に向けて、就農連絡打合せを別途月1回実施する予定としている。近年資材高騰により初期投資の増大が見込まれる中、農業経営の実現に向けた就農計画の作成など、研修生の円滑な就農を支援していく。

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人、若原 浩司)

■アスパラガス アザミウマ類の発生予察を実施

アスパラガスは、アザミウマ類が発生すると鱗片葉の褐変やスジ、カスリ状の傷が発生し品質が低下するほか、アザミウマの発生密度が高くなると伸長の停止や腐敗などが生じるため、発生数を一定以下に抑える必要がある。

農林事務所はアスパラガスの高品質生産に向けて、5月8日及び17日にアザミウマ類の予察を行った。アザミウマ類の発生数は産地全体では横ばいとなっているものの、一部生産者においては増加傾向にあることが確認されたことから、生産者並びに関係機関との情報共有を迅速に行い、発生源となるハウス周囲の除草の徹底や適期防除の実施を呼びかけた。



【発生予察調査の様子】

農林事務所では今後も定期的な発生予察調査を行い、高品質なアスパラガス生産を支援していく。

(園芸産地支援第一係・渡辺 新一)